

自分たちにできることは

白嶺小学校 合田 侑生

ある日「信号機がある交差点で、小学生が車にひかれる」という事故の記事が新聞に載っていました。ぼくは、そのことを知って、なんだか心がチクチクとなりました。それは、ぼくと同じ小学生で年齢が近いことから、その事故のことが気になったからです。

事故にあった小学生は、運転手が油断していたか、運転席から見えていなかったのかわかりませんが、交差点で車にはねられたそうです。横断歩道の信号が青で、それも交差点で車にひかれるなんて、ふつうは考えられません。でも、最近の交通事故の原因を知ると、信じられないような事故が多く起こっているようです。この事故のことを知って、みんなで交通事故にあわないためにどうすればいいか考えました。

ぼくたちの住む白嶺小学校の校区には、これといって大きな交差点はありませんが、たくさんのお車が来っています。ぼくたちは、たくさんのお車が来ている道路を横断して児童館へよく遊びに行きます。そのときに、歩行者用のボタンがある横断歩道を使います。その横断歩道をわたるときに気をつけていることが2つあります。

1つめは、なるべく車が来ていない時にボタンをおすことです。

信号が赤にかわるので、車が突然止まることもなく安心して横断歩道をわたれます。また、車を運転している人を待たせずにわたることもできます。

2つめは、交通ルールの基本の基本、「右見て左見て、もう一度右見て」の左右の確認と「手をあげてわたる」の二つをすることです。

横断歩道以外でも道路をわたるときに気をつけることがあります。

ある日、お父さんと自転車に乗って出かけていると草むらからタヌキがとび出てきてぶつかりそうになったことがありました。ぶつかりそうになったのはタヌキだけど、もしそれがぼくたち人間だったらと思うとゾッとします。このことがあってから、横断歩道じゃない道でも周りを見てわたるように気をつけようと思いました。

最後に、ほかにもできることはないか考えました。それは自転車に乗る前の点検です。

あるとき、自転車に乗る前にブレーキの部品が外れていることに気がつきました。

「この間、点検したばかりなのに」と、思いながらお父さんと一緒に部品をつけなおしました。なおした後、自転車に乗っていたら、急に小屋のカゲから車が出てきました。ブレーキが壊れていて、そのまま進んでいたら、ぶつかっていたかもしれません。自転車にのる前に点検して、ブレーキをなおしていなかったら本当にあぶなかったです。

自転車に乗る前の点検、道路を横断するときは左右を確にんしてからわたる、とび出しをしない、信号を守る、当たり前の交通ルールを意識して行動することが大切だとわかりました。

ぼくたちは、今日から交通事故ゼロをめざして、身近なこと、できることから始めようと思います。